

 開校明治七年 開校149年目	大和田小だより 学校教育目標 かしこく やさしく がんばる子 大和田小は新座の始めの学校。来年度開校150周年です。	めざす学校像 子供の自己有用感を向上させ、主体的・協働的な学びを大切にする学校 ～すべての子を大和田小の光に～ 7月号 令和5年7月1日 新座市立大和田小学校 児童数 780名・学級数 27学級	7月の生活目標 落ち着いて 学習にとりくもう 学習のきまりの確認 1学期の学習の振り返り 夏休みの学習の計画
---	--	--	---

文月 アサガオのように伸び伸びと

夏本番も近づき一年生が育てているアサガオのつるが、ぐんぐんと伸びてきています。子供たちは毎朝自分の育てている鉢に水やりをしており、時には「もういいですよ」と言うまでたっぴりと水やりをしているので早くも花が咲き始めています。



本校の授業づくり

5月中旬から6月末までの間に1学期の教室訪問を行いました。教室訪問とは校長と教頭が全教員の授業を各一時間ずつ通して参観するものです。本校では令和3年度から本年度までの3年間の研究のテーマを「表現する力・発信する力の育成を目指して」～目的や相手を明確にして考えを広げ、深める授業づくり～として授業改善を進めております。授業参観する中で感じた本校の子供たちの様子を幾つか伝えます。

どの学年にも言えることですが、子供たちの学習に向かう姿勢はとても良いものを感じます。概ね授業前には次の授業の準備ができており、授業の始まりからとても集中できています。

授業の中では、まずは子供たち自身が自分の考えを個人で形にすることを目指しています。「表現する力」につながるものです。また主体的で対話的な学びを進めるためにはペア学習など効果的な学習の形態を計画して、個の考えをさらに深めていくことも意図的に取り入れています。



さらに子供たち同士で学んだことを伝え合い、他者と協働して学びあうことで自らの学びを深めていこうとする姿勢が見られます。「発信する力」につながるものです。概ね低学年ではあまり意識せずに教え合うことができるのですが、本校の子供たちは高学年でも、わからない



校長 近藤章宏

ことを聞いたり、理解の早い子が教えたりすることができています。子供たち同士の温かな人間関係が作られているものと思います。

教員の授業の進め方の工夫としては本校では「ゴール」を明確にした授業づくりを目指しています。複数の授業時間で構成される学習のまとまりである単元の中で、この時間では何を学ぶのか、そしてどのようなことを習得し、理解できれば「ゴール」なのかを意識させて進めるようにしています。前の時間からつながりや、その時間の振り返りから子供たち自身がゴールに気付くような場面がいくつも見られます。

また、ICTの活用に関しては「ロイロノート」という、クラウド型授業支援アプリケーションを活用した授業づくりを進めています。

(オンライン環境で動作する学習効果を高めるためのアプリ)。事前に教員が作成した教材を子供たち一人一人のタブレット端末に送信したり、考え方をカード式にリレーションして可視化したりします。また回答を子供たち同士で共有したり、参考になる他の子供の考え方を教員が選んで、提示することもできます。一人一台端末を有効に活用して授業効果を高め、効果的な指導法は全校に拡げてまいります。



本年度のアサガオのつるの太さはとても際立っているように感じます。それはまるで大和田小の子供たちがぐんぐんと育ち、力を蓄えているようにも感じられてとても嬉しくなります。また様々な制限のあったこの3年間を取り戻すかのように、力のかぎり伸びていっているようにも思えます。本校の子供たちがアサガオのようにぐんぐんと伸びていけるよう授業改善を図る中で、精いっぱい水をやり、声掛けをして**全ての子供たちが大和田小の光**として輝ける学校を目指してまいります。保護者、地域の皆様方も本校の子供たち、そして時には教職員にも声をかけていただければ幸いです。